

平成30年は、熊本地震からの復旧・復興に向けた県民の生活に深く関わる「重点10項目」など県政の主な動き、将来に向けて夢や希望を与える出来事、県民幸福量の最大化に資する出来事、県政課題の解決に向けて取組みを積極的に進めたものを選びました。

◎熊本地震からの生活再建が進む

「すまいの再建」の前提となる災害廃棄物の処理については、年内に35,675棟ものすべての公費解体を完了し、「創造的復興に向けた重点10項目」のひとつが実現できた。

また、これまで取り組んできた県独自の4つの支援策に加え、8月には保証人のいない方でも、民間賃貸住宅に入居できる制度を「5つ目の支援策」として創設。応急仮設住宅の供与期間については、10月に、「やむを得ない事情」のある方について、更に最長1年間の延長が可能となった。

6月には県内で最初の災害公営住宅が西原村で完成したのをはじめ、それぞれの市町村でも工事が進み入居が始まっている。2020年春には全ての住宅が完成することを目指し、市町村と連携しながら整備を進めている。

「しごとの再建」では、農地復旧と併せた大区画化や営農施設等の復旧を進め、営農再開率は98.3%となり、100%再開に向けた取組みが着実に進展している。商工業などにおいても、中小企業の再建を支援する「グループ補助金」では、4,855件、1,345億円を交付決定し、そのほとんどの企業が今年度内に復旧工事の完了を予定しており、着実に被災企業の復旧が進んでいる。

◎「益城町の復興まちづくり」に向けた取組みが本格スタート

益城町のまちづくりの要となる事業を速やかに進めるため、4月に「益城復興事務所」を開設した。

県道熊本高森線の4車線化は、用地交渉が本格化。熊本大学ましきラボの提言等も踏まえ、来年1月から創造的復興のシンボルとなるモデル地区の工事に着手することが決定した。

木山地区の土地区画整理事業は、県が事業主体となる協定を益城町と3月に締結。7月に用地交渉を開始し、9月には国土交通大臣の事業認可を受け、現地測量や換地設計等に着手した。

「益城町の復興なくして熊本地震からの復興はない」との思いで、益城町と一体となって着実に取組みを進めている。

◎阿蘇へのアクセスルートが着実に回復

県道阿蘇公園下野線（北登山道）が4月に開通。阿蘇山上につながる全ての登山道が開通し、阿蘇火口見学も本格的に再開した。国の直轄代行により復旧が進められている俵山トンネルルートは、7月に桑鶴大橋の復旧が完了。また、国道57号北側復旧ルートの二重峠トンネルが11月に部分貫通するなど、着実に復旧が進んでいる。

南阿蘇鉄道については、国による支援制度が創設され、3月には全線復旧に向けた工事が着手されるなど、県と地元が緊密に連携し、早期復旧に向けた取組みを進めている。

◎熊本地震の教訓を活かし全国の被災地を支援

「大阪府北部地震」、「平成30年7月豪雨」、「平成30年北海道胆振（いぶり）東部地震」など、今年は今全国各地で大規模な災害が発生。「平成30年7月豪雨」の際には、4月に機体更新した県防災ヘリ「ひばり」を、発災直後、岡山県に派遣し住民の救助に当たった。また、被災自治体に対して、熊本地震の経験を踏まえた初動対応のノウハウの提供、保健・医療・土木など専門的な支援や罹災証明事務の支援、「熊本県学校支援チーム」の派遣による学校教育の早期復旧など、全庁を挙げて「プッシュ型」での支援を行った。

11月には、大規模災害に備え、熊本地震で使用後、県内で保管されていた廃棄物処理プラントが、大量の災害廃棄物が発生した岡山県で再活用されることが決定した。

◎陸・海・空の玄関口の整備が進む

【熊本駅周辺】3月に熊本駅周辺のJR鹿児島本線等の高架化が全線完了したことにより、長年の懸案であった渋滞などの交通問題が大きく改善し、引き続き熊本駅舎の整備を進めている。さらに、2021年春に開業予定の新たな駅ビルの概要が公表されるなど、熊本駅周辺は新たな姿に生まれ変わりつつある。

【八代港】2月にロイヤルカリビアン・クルーズ社（RCL社）と「クルーズ拠点形成協定」を締結。10月には、国土交通省、県、RCL社の3者合同で基本計画を公表した。世界最大のクルーズ船が寄港できる専用岸壁の整備（国）、利便性等の高い駐車エリアの整備（県）、旅客ターミナルや「おもてなしゾーン」の整備（RCL社）など、官民が連携して魅力あるクルーズ拠点づくりに取り組む。

【阿蘇くまもと空港】3月に国によるコンセッションの公募が開始。平成31年（2019年）春の運営権者決定に向け、応募者との意見交換など2020年の空港運営開始に向けた手続きが着々と進められている。空港へのアクセス改善については、「鉄道延伸（三里木ルート）」を軸に検討を進めることとした。また、国際線は、5月の香港線の定期便化により、熊本地震前の3路線全てが定期便として回復。さらに、10月からの冬ダイヤでは、ソウル線の増便による毎日運航が実現。11月からは韓国・大邱（テグ）線が新たに就航するなど、国際路線の新規就航及び増便が続いている。

◎「天草の崎津集落」が世界文化遺産に登録決定

「天草の崎津集落」を含む「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が、7月に世界文化遺産に登録された。県内では平成27年（2015年）に「明治日本の産業革命遺産」として登録された万田坑、三角西港に次いで2件目となる。今後は、人類共通の宝として後世にしっかりと伝えていくとともに、熊本の魅力として国内外に発信していく。

5月には、天草と宇土半島を結ぶ「天城橋」が完成し、天草の新たな玄関口となる熊本天草幹線道路「三角大矢野道路」（3.7km）が開通した。交通混雑の緩和、災害時の多重性の確保、さらには「天草の崎津集落」も含めた観光振興の弾みになるものと期待している。

◎2019年の国際スポーツ大会に向けた準備が本格化

ラグビーワールドカップは、8月に、熊本で試合を行うフランス、トンガ、ウェールズ、ウルグアイの4チームが本県で公認キャンプを行うことが決定。開催1年前となる9月に、チケットの一般販売が開始された。

また、女子ハンドボールは、8月に、世界選手権大会のプレマッチとなる「おりひめJAPANトライアルゲームズ2018」が開催。さらに11月には世界選手権大会の予選でもある「女子ハンドボールアジア選手権」が熊本市、八代市、山鹿市の3会場で開催、特に日本代表戦には多くの方が訪れ、大会期間中の観戦者は2万4千人を超えた。11月には、世界選手権大会のチケット販売も開始された。

「復興のシンボル」である熊本城についても、国際スポーツ大会の開催を見据え、来年の秋頃を目指した大天守外観の復旧と公開に向けた取組みが進められている。いよいよ来年に迫る国際スポーツ大会の成功に向け、大会の認知度向上や更なる機運醸成を図り、「オール熊本」でしっかりと取り組んでいく。

◎荒瀬ダムの撤去工事が完了

撤去資金の確保など、先例のない取組みで多くの課題に直面したものの、国による財政面や技術面の支援と、地元の強い思いを受け、平成22年（2010年）2月に荒瀬ダムの撤去を決断した。

平成24年度（2012年度）から工事に着手し、治水及び環境に配慮しながら6年間かけて撤去工事を進め、今年3月に完了。同月に地元の方を招き、八代市坂本町で「荒瀬ダム撤去完了式典」を開催した。全国初の本格的なコンクリートダム撤去として、ダムが果たした役割や撤去の過程で得られた技術的知見等を後世に引き継いでいく。

◎水俣病 公害認定から50年を迎える

水俣病を公害病と認定する昭和43年の政府の公式見解の発表から、9月で50年を迎えた。

11月には蒲島知事が水俣・芦北地域を訪問し、胎児性・小児性水俣病患者の方々との面談や、水俣病資料館語り部の会の方々との意見交換などを行った。

今後も、水俣病の被害にあわれた方々に寄り添いながら、迅速かつ丁寧に認定審査を進め、2019年度までの1,200件の審査完了を目指すとともに、胎児性・小児性水俣病患者の方等への支援を行っていく。また、水俣病の教訓を踏まえ「水銀フリー社会」の実現をはじめ、環境を守ることの大切さを広く国内外に発信していく。

◎漫画『ONE PIECE』の主人公「ルフィ」像を県庁プロムナードに設置

本県出身の漫画家で、『ONE PIECE』の作者である尾田栄一郎氏に対し、これまでの功績と熊本地震からの復興支援への貢献に敬意を表し、4月に県民栄誉賞を贈呈。また、熊本の復興を後押しする象徴として、蒲島知事から「ルフィ像」の設置を提案し実現。11月30日の除幕式でその完成を県民やファンとともに盛大に祝った。

今後、ルフィの仲間たちの像を県内の被災地に設置することで、「麦わらの一味」と力を合わせた熊本地震からの復興を力強く進めていく。

【プラス1項目】

◎くまモン 世界に向けてチャレンジ

本格的な世界展開を図るため、くまモンが「大いなる挑戦の年」として新たなチャレンジに乗り出した。

4月には、これまで国内に限定していたくまモンのイラストを海外に解禁。また、多言語に対応したユーチューブ専用チャンネル「くまモンTV」を公開し、海外をターゲットとしたくまモンのアニメ制作も進むなど、くまモンの活躍空間は世界中に急拡大している。

さらに、7月には児童向け人気学習漫画「偉人伝シリーズ」に人類以外で初めて主人公として選ばれ、9月にはくまモンのグリーティング切手が全国規模で3,000万枚発行されるなど、くまモンの共有空間はますます広がっている。

「熊本の宝」であるくまモンが、「くまラボ」での民間の知恵も結集しながら、国内だけでなく海外の皆様にも幸せを届ける「日本の宝」、「世界の宝」に成長することを期待している。